SECTION 03 シンプルで柔軟性の高い4カラムレイアウト

Internet Explorer 6 7 8
Firefox 1以上
Safari 1以上

制作・文：境 祐司

CSSの段組み表現には、様々な手法がありますが、なかでもfloatプロパティを使うものは最もメジャーといえるでしょう。浮かせて寄せる感覚でシンプルかつ柔軟な表現が可能となります。4カラムレイアウトも簡単に指定できます。

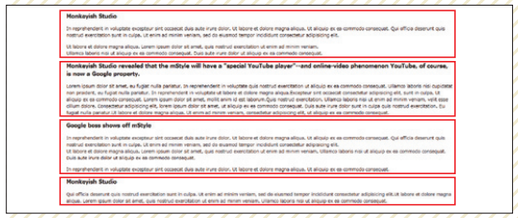
制作のポイント

- フロートを考慮した段組みのマークアップ
- floatプロパティによるボックスの浮動化
- clearプロパティによるフロートの解除

使用するおもなコード／プロパティ

```
float:left;
clear:left;
width: 270px;
padding: 16px 10px 0 10px;
```

TECHNIC 1 文書構造を優先したマークアップ

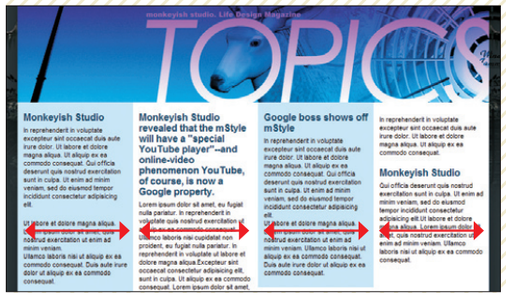


視覚表現のためにXHTMLの文書構造を操作していないので、CSSが適用されていない状態（ブラウザのデフォルト表示）でも、閲覧者が混乱することはありません。また、音声読み上げソフトでも問題なく情報を伝えられます。

TECHNIC 2 シンプルなレイアウト構造

マルチカラムレイアウトの構造がシンプルにつくられているため、ボックス間のマージンの調整やコンテンツ（テキストなど）の増減に対応した作業も容易に実行できます。このサンプルはpaddingで間隔を指定しています。

TECHNIC 3 ボックス幅はwidthプロパティで指定

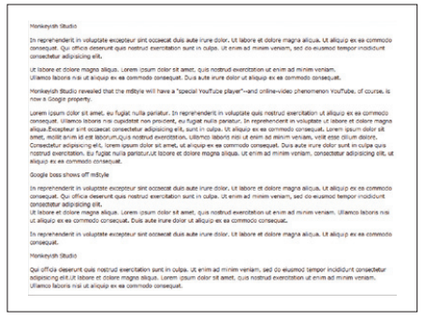


4カラムレイアウトの各ボックス幅は、widthプロパティで指定されていますが、floatプロパティによる左寄せだけで構築しているため、幅の数値を変更するだけで自由にボックスの幅を調整できます。

XHTMLとCSSを作成し下準備を行う

01 ページのコンテンツ領域を4カラムレイアウト（4段組み）で作成します。文書は見出しと記事本文をセットにし、4段分記述されています。この段階ではすべてp要素でマークアップしましょう 1-1 。

1-1



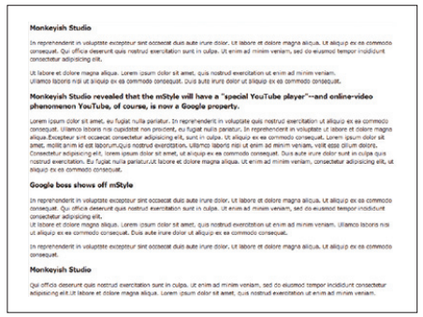
02 記事の見出しはh3要素でマークアップしています 2-1 。すべてのカラムにdiv要素を追加し、id名を付けます。id名は上から「local-navi」、「main-contents」、「sub-contents」、「advertisement」としています。実際のレイアウトでは左から順番に並びます 2-2 。

2-1 XHTML

```
<div id="local-navi">
<h3>見出し</h3>
<p>本文</p>
</div>
<div id="main-contents">
<h3>見出し</h3>
<p>本文</p>
</div>
```

```
<div id="sub-contents">
<h3>見出し</h3>
<p>本文</p>
</div>
<div id="advertisement">
<h3>見出し</h3>
<p>本文</p>
</div>
```

2-2



03 CSSを記述します 3-1 。この工程では必要最低限の要素だけリセットします。リセットとは、マージン（margin）、パディング（padding）、ボーダー（border）などを0に指定することです。ここではhtml、body、div、span、h1～6をリセットしました。

3-1 CSS

```
html, body, div, span, h1, h2, h3, h4, h5, h6 {
margin:0;
padding:0;
border:0;
outline:0;
}
```